

映像メディア表現 アニメーションでCM作成

実践者

茨城県立東海高等学校教諭 滑川博顕

単元について

2年時に美術の授業で音楽を視覚化する試みを取り上げている。音楽という抽象的な媒体を視覚化することによって、音楽の持つメッセージを生徒がどのように受け止め、視覚的にとらえるかを工夫させることを目的とした。それと同時に、絵画における色彩の意味や色から受けるイメージを意識させ、自分の内的な世界を色と形で表現してもらおうと思ったからである。

映画の中では映像と音楽、効果音が作品に奥行きを与え、私たちに感動を与えてくれているが、映画を作る時間と余裕がないのが現実である。また、作品に登場することに生徒自身抵抗がある。

そのような中で、映像と音楽あるいは効果音などを使い表現した作品として、私たちの生活の中にはテレビのCMがある。CMの目的は商品の紹介だけではなく、企業のイメージアップをねらうなどそれぞれの思惑が見える。「世界のおもしろCM」などを見てみると、様々なメッセージのなかに人間の滑稽さや、悲しさ、暖かさを感じさせ私たちの心に強烈なインパクトを与えるものが少なくない。

このEVAアニメータ・スクールを生徒に使用させたのは情報の授業研究の一つと考えたからである。

以下2つの作品を紹介したい。

作品 1 ゴミはゴミ箱へ

ジュースを飲み、ため息がふわふわと流れてゆく。このときの表情に、生徒自身工夫の跡がありほのぼのとした雰囲気を感じられる。

飲み終えたジュースの缶を持って歩いていく動きがとても自然に作られている。次にゴミ箱を発見。その距離をなぜからメートルとし、しばらく考えるような表情を作っている。

空き缶がゴミ箱へ落ちるとともに画面がアップし「ヨッシャー！」のかけ声。その後、「ゴミの投げ捨てはやめましょう」のメッセージが入る。

